

高退協ニュース

No. 180
2012年
12月21日
発行
高知高退協
事務局

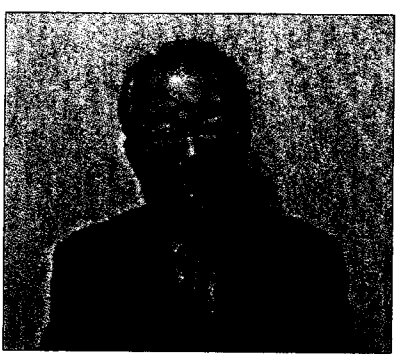
〒780-0850

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目15-10
高知城ホール高教組気付
連絡先 Tel 088-822-6822
郵便振替口座〇一六五〇二二一八九三

あけましておめでとうございます

平和と憲法を 守り抜く決意を新たに

高退協会長 國松 勝



会長 國松 勝

向にも展望が開けてきます。

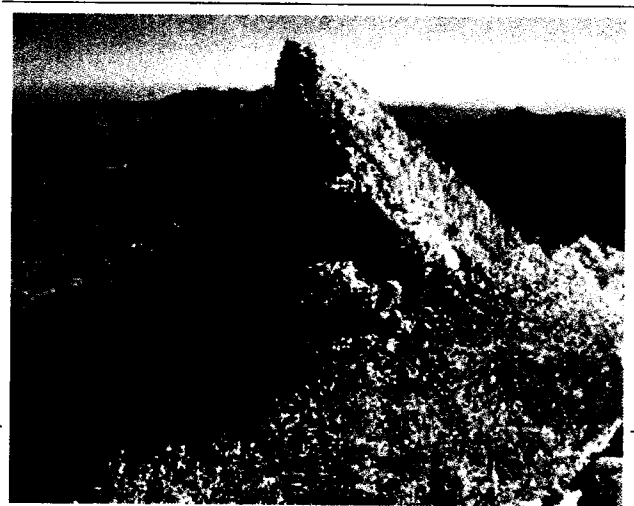
日米安保条約を廃棄し、アジア諸国との平和友好を前面に、紛争解決は理性と外交力で解決する原則を貫けば領土問題の打開の道も開けてきます。

新しい年は、アメリカ言ひなり、財界中心の従来の自民党政治型の政治路線か、それとも新たな政治理念に基づく共同の実現の道かが鋭く問われる政治状況になることは明らかです。

「教え子を再び戦場に送らない」誓いのもとに教職員組合運動に関わった同士として、

未来に希望の持てる社会をのこす役割を共有し、平和と憲法を守り抜く決意を新たに、新しい年をともしっかりしましょう。

現場の怒りの声に対し教育長は、「心苦しいがやむを得ない。」2010年の人事院の調査に基づき、相当遅れて国の法律が改正された。県はこれまで国に準拠して行ってきたおり、(やらないことは)県民や国民の理解が得られない。「一周知期間を考慮して、(施行日は国から1ヶ月遅らして)2月1日とした。」また今年度の退職者への影響を考慮し、国と違う経過措置を求めたのに対しは、「申し訳ないとは思う。しかし、借金(退職手当)を払っている状況では、借金はできるだけしないようにすること、借金を考えると、県民の目線からしても、国に準じて行うことが穏当だと思ふ。」などの回答。当然、交渉は決裂しました。



天狗山 岳
山天狗 岳
石の山 岳
冬 厳

県教委・退職金430万削減案

高教組・・・2週間で1700筆

署名で教育長交渉

高教組委員長 米満 敏孝

11月16日、ついに野田内閣は衆議院を解散しました。その前日の15日には、労働協約締結権回復を含む地方公務員の労働関係に関する法律案など2件が閣議決定され、国会に提出されましたが、審議されることなく、衆議院の解散により廃案になりました。その一方で、民・自・公の三党合意のもと、消費税引き上げの露払いとして、国家公務員の退職金削減法は、解散日の当日に、衆議院と参議院の委員会と本会議で審議・採決が

強行され、11月26日に公布されました。これにあわせて、同日、総務省は地方公務員の退職手当制度の見直しに関する「副大臣通知」を发出しました。

これを受けて県教委は、11月27日、国家公務員に準じた退職金の削減(教諭で約430万減)を提案してきました。高教組は、県教組ともに退職金削減反対署名を約2週間で1700筆集約し、12月13日に教育長交渉を行いました。

みなさん、明けましておめでとうございます。
さて、みなさん、この新年のあいさつは、総選挙が告示され、激しい選挙戦がたたかわれているさなかに書いています。選挙結果は分かりませんが、新しい年はまさに歴史の転換点にたった激動の年明けになるに違いありません。消費税増税、TPP、原発問題、オスプレイ配備と普天間問題、憲法問題のどれをとっても、私達のくらしと経済、平和と民主主義など日本の針路に関わる重大な課題に立ち向かわねばならなくなるに違いありません。

日本の政治の現状を打開し、新しい展望を切り開くためには、戦後続いてきた自民党型政治から抜け出し、新しい理念に基づく政治への転換が求められています。

それはアメリカ言ひなり、大企業中心の政治理念から、アメリカとの対等平等の関係構築と大企業への特別な優遇措置を改め、利益に応じた応分の負担を求める政治理念への切り替えということです。そうすれば日本の経済や国民のくらし、外交や安全保障に関わる重大な課題の打開の方

哀悼
田所 胤雄さん
8月10日逝去
光明院 二夫さん
11月19日逝去
平石 正敏
12月16日逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

写真で綴る 望年会・芸能大会

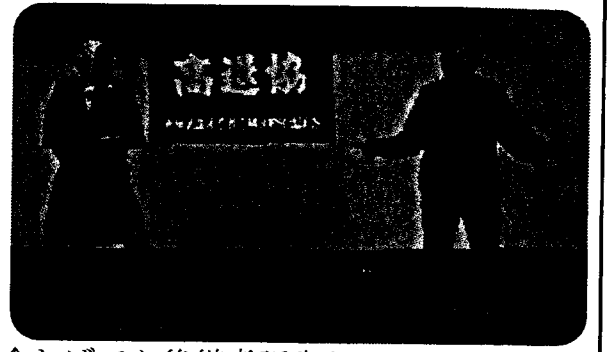
12月4日 高知城ホールで望年会・芸能大会が開かれました。年に1度は、仲間との交流を楽しみませんか。来年は、もっと多くの参加を期待します。



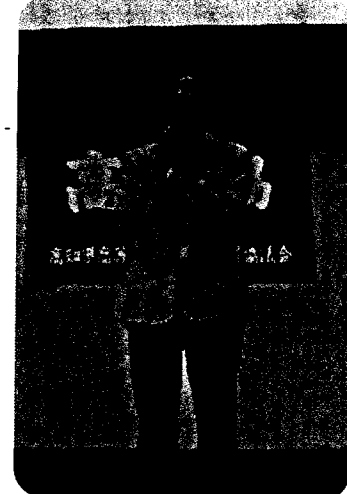
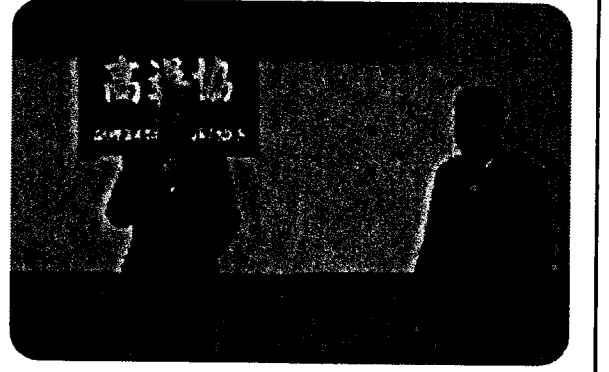
↑山の会の逸話を語る上岡さん
↓3人トリオのラインダンス



←最後はやつぱり井垣さんのエール



↑しばてん後継者誕生か
↓元気一杯の浜田さんと司会の岡林さん



↑歌手誕生 畑山さん

12月3日(月)、中村市内のホテル「ホワイトキャスル」で開かれました。参加者は、20名(本部2名を含む)。昨年より10名ほどの参加者減でしたが、和気あいあい、高退協幡多支部の団結力を確認する意気揚々たる会でした。

津野幸右さんの楽しい司会で進行。冒頭「参加者が100名くらいと聞いていたので、質を入れていた背広を出して着ていたがもういらん」と放り投げ、いつもの落語モードに早くも突入全開。参加者も一年ぶりの顔会わせも多く、軽妙な話術に乗せられ、飲むほどに酔うほどにこの一年の思い出と来年への抱負を大「演説」。

黒潮町在住のO氏。「オレは今や大スターだ」と。南海大震災の津波予測が発表された。O氏の住居地は、日本最高の30m以上の波にのみ込まれると。NHKをはじめテレビ、新聞の取材攻勢。地区の副会長を務めるO氏のマスクミ露出度はいやが上にも高まり、先の発言。スターの地位も命がけ。

K氏、数年前、退職後妻に代わり炊事、洗濯、家事全般を担当。来年3月にその妻が退職。「これで解放される」

幡多支部望年会 “フルコース”を堪能

井垣 政利

とニコニコ報告。同席の“前期高齢者”がつぶやく「ウフッ!、甘い甘い」。

退職一年目のM氏、バリバリの高退協青年部。元気にまかせて、一日缶ビール(500ml)を4、5本。早くもツケがきて痛風に。彼曰く、「プリンタイのない発泡酒にしたので大丈夫」。くだんの前期高齢者、またポツリ。「また出らあよ!ウフッ」。こんな調子のあと余興に移る。

宿毛のM氏。長短3種類の尺八を吹き分け拍手喝采。司会者の秋田県のマタギの“尺六”のオチでさらに喝采。続いては、T氏のオカリナの演奏に合わせ、4人の女性のコーラス。声の張りは現役時代以上。酔いも回りみんなうつつと。来年は、本部の望年会に出演依頼が・・・!

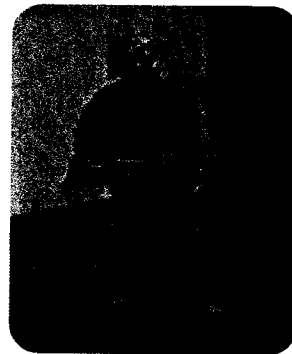
そして、幡多の宴会といえど料理。刺身は旬のネイリ。これが絶品。つづくアユの塩煮。香りがよく珍味中の珍味。最後は鴨鍋の雑炊と幡多料理の“フルコース”を堪能。みんな「甘露!甘露!」と大満足。パンパンのお腹で「フレ!フレ!」のエール交換。来年のさらなる飛躍を誓い終了。



↑岡崎さんの詩吟で綴る組合史
↓楽しい”どじょうすくい”加藤さん



京都旅行の思いを話す
西田さん↑と叶岡さん↓



2度目の福島

ボランティア活動に参加して 一年以上たつても 何も変わっていない

橋元 陽一

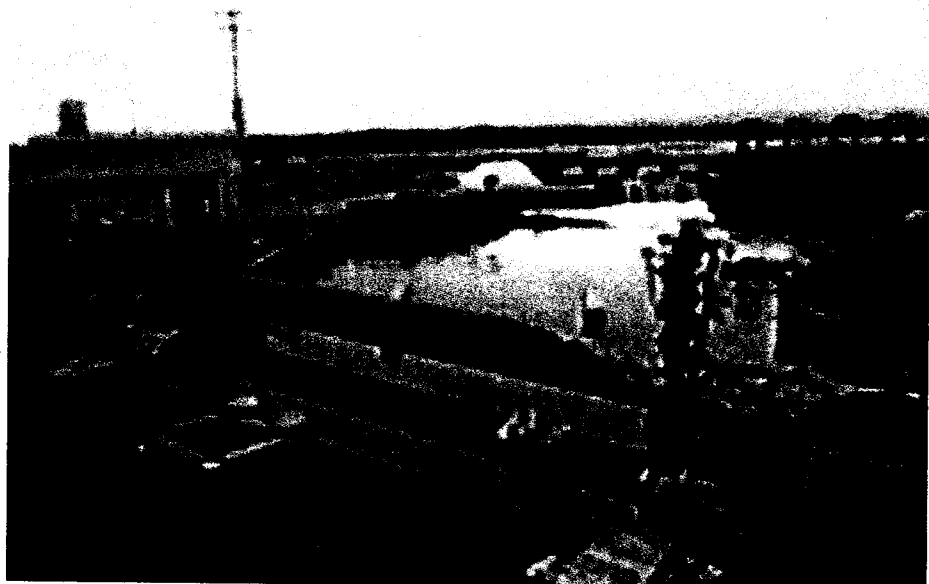
3回に分けて連載
します。第2回

14日午前中には南相馬市へ移動し、鹿島給食センターをお伺いしました。ここは事故直後に市内の鹿島町・原町・小高町の子どものための2900食を賄っていた給食センターで、四国からボランティアセンターを通じて食材を届けていたところでした。今は400食になっており、食材はすべて県外産で、センターに設置されている4台の線量計ですべて測定して使用しているとのことでした。しかし、市内全体で小学生の50%、中学生の55%しか戻ってきておらず、やがて子どもたちがいなくなってしまうのではないかと心配しているとのことでした。

午後は、10〜20km圏内にある小高町を地元の議員さんに案内して戴きました。4月16日から警戒区域制限が解かれ、昼間には一般人も自由に出入りができるようになっています。これまで復旧・復興の手立てが行われておらず、1年前に

訪れた原町や鹿島町と同じ被災状況のままでした。議員さんは被災直後に、余震が続く中、町内の海岸線にある水没した2000畝干拓地の井田川区に来て、自衛隊の救援を要請し、ポンプ設置しての排水作業や遺体捜索作業の指揮を執った方です。

堤防に近い家を指しながら、「この家では出産で里帰りした母子が犠牲になった。生後1月の赤ちゃんのお人形さんのような遺体を見つけた。お母さんは、数km離れたところで発見された。」との説明を受けました。6mの堤防に囲まれた地域に16m以上の津波が襲い、瞬時に多くの人の命や家屋・財産を奪っていった光景が広がり、自然災害の恐ろしさに、からだが震えまわした。この地に、さらに原発事故による放射能汚染が襲い、町民の皆さんは着の身着のまま避難し、今年の4月中旬まで、帰ることもできなかったのです。



井田川干拓水門

訪れる数日前に、避難先で頑張ってきた54歳の男性が荒れ果てた我が家と田畑を1年数か月ぶりに見ると、希望をなくして自宅を断たれたと聞いて、鳥肌が立つほど驚愕しました。実は1年前に訪れたときに、相馬市の玉野（飯

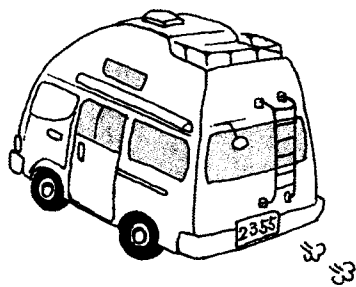
館村の北側に位置する）で、近くで酪農をされてきた男性が放射能汚染でその道を断たれ、希望を失い自宅で自ら命を絶たれた話を聞いていたからです。

被災された現地の方々に寄り添って、復旧復興支援が国

趣味

私の中古キャンピングカー 通歴三十年

山崎 昭夫



我が家の家族にとってキャンピングカーが生活の一部となってもう三十年。手作りの小さなキャンピングカーに始まって、二台目、三台目と子どもたちの成長とともに車も大きくなったのですが、中古四台目となった現在は、夫婦二人用と言ってもいいほどのコンパクトなキャンピングカーになりました。

ところで、キャンピングカーに関わるいくつかの誤解を：

①キャンピングカーが好きだから「アウトドア派」：か？
もちろんそんな人も多いのですが、私は完全なインドア派。「朝寝坊をして目を覚ますと、そこは人っ子一人いない高原の原っぱ」というそんな夢のようなシチュエーションを、できるだけ楽に実現してくれそうなアイテムとして、私はキャンピングカーを選んだのです。寒ければ暖房を：（暑いところでは泊まらない）、雨が降れば車に逃げ込み、山の中で寝てもクマに襲われる心配もない：。私はもともとものごさな性格なのです。

「文化的な生活」（死語？）をしたいと思うなら、大型のアメリカ製キャンピングカーを買いたししょう。ただし、日本でも移動できる範囲はかなり限られてきますが：。

②どこでも寝られて、宿泊代もかからず、経済的：か？。とんでもない。最近でこそ「道の駅」など、休憩（宿泊）できる場所も増えましたが、安全性や騒音等まだまだ問題山積です。安全や快適さに不安を持つなら、絶対にホテルや旅館に泊まりましょう。

③キャンピングカーでの生活は快適：か？
キャンピングカーの中で

私のキャンピングカーでの生活といえば、狭いキッチンで食事のメニューも限られ、おなじメニューが数日続いたり、缶詰、レトルトもののお世話になったり：。トイレの手洗いもキッチンの流しですまさないといけないし、運悪く温泉地に巡りあうことができれば、二、三日風呂なしは当たり前。水は常に節水に心がけ、ゴミだつて車内に置ける量にも限度がある。要は狭い車内での生活はいろいろ我慢を強いられることもあるのです。この「非日常的な不自由さ」を《苦痛》と感じるか《快楽》と感じるか、そこが分かれ目だと思います。最後に私のお気に入りのロケーションを紹介します。

- ① 星ガ窪キャンプ場（仁淀村）
- ② 塩塚高原の駐車場（徳島と愛媛の県境）
- ③ 黒沢湿原（くろぞうしつげん）（徳島県三好市池田町）
- ④ 高知自動車道「土佐PA」

復活した親睦旅行 京都で感慨に耽る

森下 清二郎

三年ぶりに親睦旅行が復活しました。去る11月14日から一泊二日の日程で「京都・岡山平和と福祉を考える旅」として実施しました。参加者は、15名とやや少なめでしたが有意義な旅行となりました。全行程貸し切りバスで行きました。第一日は、まず京都の名刹である三十三間堂・龍安寺・金閣寺に参詣しました。皆さん何度か訪れているとのことでしたが、かなり以前のことであり、当時のことを思い出しながら感慨に耽つ

ていました。一日目のメインは、立命館大学国際平和ミュージアムの訪問です。ほとんどの人が初めての訪問であり、その理念や展示内容と規模に感銘を受け、時間が足りないもつとじっくり見たかったとの声が始まりました。ただ沖縄問題の展示が少ないとの声もありました。

夜は京都の祇園で懐石料理を堪能し、その後祇園の花街や先斗町を散策し京都の夜を楽しみました。

二日目は、まず「山宣」と山本宣治の墓参でした。平等院のすぐ近くと言うことで急遽平等院を訪問しましたが、残念ながら改築中と言うこと

でそれ自体を見ることはできませんでした。墓自体は、墓誌などもなくやや寂しいものでしたが、それぞれ思いを込めてお祈りしてきました。その後、京都を離れ岡山の津山に向かいました。

「朝日訴訟」で有名な朝日茂の墓参のためです。墓は日蓮宗本行寺の中にあり、多くのお墓のいっかくを占め墓誌もありきれいに整備されています。住職さんの説明もあり彼の苦闘の歴史に思いを寄せました。合掌。予定より早く午後5時頃全



日蓮宗本行寺の朝日茂の墓参

んどない御方・将軍家となって栄えている。これでどうして「報い」があると言えるのか」と。

それでは、映画『チャップリンの殺人狂時代』のなかの台詞はどうだったでしょう。まずギロチン刑決定の法廷で、最後の言葉を許されて、チャップリンは言います。「大量殺人を世界中がやっている。必死で大量殺人の兵器を作っている。無言の女、子どもを吹っ飛ばしている。しかも効率よく、私などアマチュアだ」。

次に独房での記者から取材をうけて、記者「殺人はひきあわんか?」、チャップリン「小規模ではだめだ」。記者「君はこの時代の象徴だ」、チャップリン「象徴と言われても困る」。記者「君は大量殺人をやった」、チャップリン「一人殺せば犯罪だが、戦争で何百万人も殺せば英雄だ」。

神父がやってきて、神父「神との和解を」、チャップリン「人間と和解したかった」。神父「罪の後悔は?」、チャップリン「罪の実体などだれに分かるだろう。また最後に行き着く所は神様もわかるまい」。

宗教への批判が二人に共通していることにも驚きました。なお、『国意考』は一七六五年、『殺人狂時代』は一九四六年です。

チャップリンと 賀茂真淵

横田 慧

十五年も前のことですが、賀茂真淵の「五意考」のうちの『国意考』について、岩崎允胤さんが書かれているものを読んでいるうちに、真淵に驚くべき側面があったことを教えられました。真淵によれば、戦国時代に人をどれだけ多く殺したかによって、徳川の御代での身分がわかれている、というのです。私はすぐに、チャップリンの映画『殺人狂時代』にでてくる台詞を思い出しました。

まず、真淵がいうのには、[引用文は、私がいま風書きかえてあります]仏教の教えのなかに、「報い」があるが、殺人ほど大きな罪はなく、その「報い」は大きいはずだが、現実とは違う。「前の時代、すなわち戦国時代には、年中戦争があつて人殺しをした。その時に一人も殺さなかった者は、今は「なほ人ども」[庶民]である。少し殺した者がいまは旗本になっており、もう少し殺した者は大名である。それ以上に殺した者は一国のぬしとなり、限りなく殺した者は、いたってや

飲水思源

俳句

員無事に帰高しました。15名と少ない参加でしたが、教職員組合のOB・OGらしい有意義な旅行であったとの

十月二十日 土曜
高知市 春野町秋山

三十四番札所 種間寺

種間寺に秋冷到る一會かな
破れ蓮となりきつたるは

合田 青幹

吉本 伸秋

渾渾と転がる疎水秋高し

刈萱の祭日を抱き翔ぶ構へ

十一月十七日 土曜

いの町 十佐和紙工芸村

合田青幹

三椏みつまたの小さき雷かみなりや紙の里
一軸は落葉の五言絶句かな

小笠原さちを

一刻は暖炉を囲む人となる

冬の雨集め澗水かんすいた走れる

短歌

山茶花と藪柑子
の実など

榊原忠彦

山茶花の生け垣見ればくりくりと赤茶色の実が葉の間に照れる
(九月)

借り部屋に過ぐす身となりこの秋も虫の音聞かず師走に入れり
(師走二首)

新春を迎へんためか藪柑子実みは赤・白と色づきにけり

希望

山本晶子

道の辺にさざんか美しく咲く見たり命あればこそ七十路の初春

こんな世にも希望はあらん公園の外まで響ける児らの高寒風のなか黙々と道路工事する若者の穏やかな顔

瞳をあげて

叶岡淑子

入院の友を見舞いし隣室に知人の名も見つ八十路も近し

「国防軍」「核武装」など忌まわしき日本語も飛ぶ歳末選挙

どこへ行くこの国この星今こそは希望語ろう瞳をあげて

川柳

あかつきの抄 ③

小澤 幸泉

横綱をまた外人に明け渡す

白髪は国の荷物だ切りなさい

消費税増えて喜ぶひとが居る

要石少しずれて騒ぎ出す